

奥越高原青少年自然の家(1/2)

とりのが
大自然



福井県立奥越高原青少年自然の家

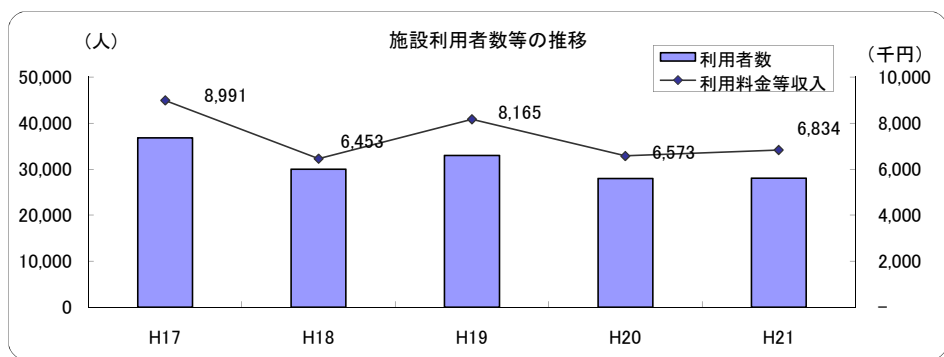
所在地	大野市南六呂師169-8		
設置年月日	昭和47年1月5日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階建延7335.93㎡ 宿泊室(350名)、研修室(洋2、和2)、多目的ホール、体育館、スキー用具室、キャンプ場3箇所(416名)		
職員数	職員12人		

利用状況等

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	36,758	30,005	32,951	27,985	28,030

利用者負担(利用料金)等

宿泊棟 利用料	26歳以上	1,100円
	26歳未満	620円
	高校生	470円
	小・中学生	310円



利用状況の推移	<p>長期化する少子化の影響で児童生徒数が減少中、当所の利用者も3万人に達せず、減少傾向にあります。特に、近年は暖冬が続いたこともあり、冬期間の利用に陰りが見えます。</p> <p>平成21年度は、京都・滋賀方面で誘客活動を展開した効果もあり、利用者数が微増しました。</p> <p>キャンプ場の利用は、炊さん場・魚つかみ場・キャンプファイヤーでの利用がされるものの、テント泊する利用者は減少しています。</p>
---------	--

施設の特徴

勝山市と大野市にまたがる奥越高原県立自然公園の標高600mに位置し、周囲にある経ヶ岳を中心とする山と溪流、隣接する六呂師スキー場を利用して野外活動が体験できる山岳型拠点施設です。

- ・宿泊棟は最大350人が利用できる大型の施設です。
- ・キャンプ場は3カ所あり、初心者から上級者までレベルに合わせた利用が可能です。
- ・近隣には、県自然保護センター、県奥越高原牧場、ミルク工房奥越前などがあり、四季を通して大自然の中でさまざまな体験活動ができます。



ファミリーキャンプ



サマーチャレンジ教室



紅葉登山



白銀のつどい

奥越高原青少年自然の家ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/svougak/okuetu/hp-1.3/index.htm>

平成21年度の特徴について

事業実績	<p>受け入れ指導事業のほか 主な事業として</p> <p>①7日間のサマーチャレンジ教室を実施しました。 参加した児童生徒の95%、保護者の96%が参加して良かったとし、「登山や野外炊さんなどいろいろな体験をとおし、多くの友達ができて、本当に楽しかった」、「大自然の中、仲間と助け合いながら活動することで、相手を思いやる気持ちや自分勝手ではいけないということを学んだようだ」などの意見がありました。【参加者 41名】</p> <p>②ファミリーキャンプ・紅葉登山・白銀のつどいなど、奥越高原の豊かな自然を活かした主催事業を7回実施しました。【参加者 267名】</p> <p>③もりっ子教室として「星空ウォッチング」4回、「ものづくり教室」2回を実施しました。【参加者 144名】</p> <p>④キャンプカウンセラー研修会を養成事業として3回実施しました。また、カウンセラー自身が企画力をつけるためステップアップ研修を実施しました。【参加者 51名】</p>
------	---

奥越高原青少年自然の家(2/2)

行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	118,776	49.5%	94.0%
	退職給与引当金繰入	1,274	0.5%	-16.3%
	賞与引当金繰入	5,544	2.3%	90.7%
	計	120,050	50.0%	96.3%
物にかかるコスト	物件費	55,331	23.1%	94.4%
	維持補修費	9,012	3.8%	118.3%
	減価償却費	54,485	22.7%	100.0%
	計	118,828	49.6%	98.5%
その他	公債費(利子)	949	0.4%	87.5%
	その他	21	0.0%	36.8%
	計	970	0.4%	84.9%
合計		239,848	100.0%	97.3%
収入	利用料等収入	6,833	2.8%	104.0%
	一般財源	233,015	97.2%	97.1%

バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	1,971,705	97.3%	固定負債	135,574	95.9%
うち土地	1,879	100.0%	うち起債残高	49,917	87.5%
うち建物	1,956,849	97.3%	うち退職手当引当金	85,657	101.5%
投資等	0	-	流動負債	12,675	52.1%
流動資産	0	-	正味資産	1,823,456	98.0%
計	1,971,705	97.3%	計	1,971,705	97.3%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	2,436	2,494	97.7%
県民1人あたり将来負担額	167	174	96.2%
世代間負担率	92.5	91.8	100.7%

バランスシート、行政コスト計算書の特色	<p>人にかかるコストは、全体経費の約5割を占めていますが、職員は平成20年度より1名減っています。</p> <p>物にかかるコストは、物件費を94.4%に抑えましたが、建設から14年経過し維持補修が18.3%増えたことから、前年度比の98.5%となりました。</p> <p>行政コスト全体では、前年度比1.5%の減少、県民1人あたりの負担額も1.4%減少しています。なお、施設利用者は以前よりも減少傾向にありますが、前年度よりは増加しており利用料金等収入は4%増えています。</p> <p>資産は建物がほぼ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。</p> <p>設備の充実と収容人員の拡大のため、平成7および9年度にかけて宿泊施設の全面改築を行いました。この際に約20億円の借入れを行いました。21年度末残高50百万円まで償還が進んでいます。</p> <p>他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>利用団体の活動支援にかかる事業</p> <p>施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施)</p> <p>【H22予算額: 約62百万円】</p>
今後の課題	<p>H17年度から、キャンプ場の利用者が減少しています。原因は、キャンプ場の設備が利用者ニーズに合致していないことにあると思われます。トイレの改修、シャワー設備の新設、バリアフリー化など環境整備が求められます。</p> <p>天候に左右されることなく活動できる施設設備の充実とアクティビティの開発が必要です。</p> <p>団体等の受入れ基準に制限があり、利用者獲得の妨げとなっているので、受入れ基準の見直しと弾力的な運用が必要です。</p> <p>予算の効果的な執行により、利用者の活動・施設設備・食事の安全確保にかかる経費を充実させる必要があります。</p>
今後の事業方針 取組み内容	<p>変化に富んだ地形、豊富な動植物、四季折々の美しい風景など恵まれた立地条件と、周辺一体の観光資源を最大限に活用し、登山・キャンプ・ハイキング・魚つかみ・オリエンテーリング等、多種多様な体験の場となるよう取組みます。</p> <p>また、天候に左右されない環境、食、社会奉仕を3つの柱にした自然体験活動を取り入れ、事業内容の充実を図り、利用者満足度90%以上をめざします。</p> <p>学校訪問を積極的に行うほか、ホームページや広報誌を活用した広報活動を行います。周辺自治体や関係団体等との連携強化を図るとともに、新たなアクティビティの開発に努めます。</p> <p>長期宿泊を行う学校を増やすため、長期滞在型(4泊)のモデルプログラムを作成し、県内はもとより京阪神・中京地区の小中学校への勧誘に努めます。</p>

